



BE THE INSPIRATION

吹田西ロータリークラブ

国際ロータリー 第2660地区

ウィークリー 2018-2019



■創立 1980.6.12

事務所 / 〒564-0051 吹田市豊津町9番40号 カリーノ江坂1階 TEL06-6338-0832 FAX06-6338-0020

URL <http://www.suita-west-rc.org>

例会場 / 新大阪江坂東急REIホテル 〒564-0051 吹田市豊津町9番6号 TEL06-6338-0109

例会日 / 毎月曜日 18:00~19:00 役員 / 会長: 大藤辰弘 幹事: 榎原一滋 会報委員長: 水谷徳之

4つのテスト

- 真実かどうか
- みんなに公平か
- 好意と友情を深めるか
- みんなのためになるかどうか

第1712回例会 平成30年10月29日

卓話

日本ロータリー100周年、吹田西RC40周年の歴史
瀧川パスト会長

今週の歌

「それでこそロータリー」

前回内容

会長挨拶 大藤会長

皆さん今晚は、先週は山本ガバナーをお迎えして色々なお話しを頂戴しました。ことのほか、嬉しく思いましたのは、当クラブの出席率に関し、お褒めの言葉を頂いたことです。100%の基より、ホーム出席率の高さと、出席免除の会員の出席率です。

ホーム100%は他のクラブの追随を許しません、ホーム出席率と出席免除の会員の出席率においても、他のクラブに比類なきぐらいと仰られました。そして、それも例会を楽しみにされておられる会員だからこそできることだとも仰られました。

本当にうれしく思います。今後とも、楽しみにできる例会を目指したいと存じます。

さて、ご存じの皆様も多いと思いますが、ついこの間までの米山奨学生の方が、大変なことに巻き込まれました。現在は、警察の介入により、一段落しておりますが、今後も気をつけないといけないとの連絡がありました。

この週報の会長挨拶にも、名前を検索されることが懸念されますので、週報には名前は載せません。

奨学生の身の安全を考慮し、何卒、皆さん、今後理事会等の決定にご理解いただきたく存じます。

幹事報告 榎原幹事

1. 本日例会終了後に理事会があります。
2. ガバナー訪問の写真を来週BOXにお入れします。1枚1,600円ですので、受付でお支払いをお願いします。

出席報告 出席委員会 河邊委員長

- 会員数 48名 出席会員数 36名
- 来客 0名 本日の出席率 87.80%
- 10月1日の出席率 (メーキャップ含む) 100%

ロータリー財団委員会 矢倉委員長

小川会員より、特別寄付をいただきました。ご協力ありがとうございました。

米山記念奨学会委員会 清水(大)委員長

小川会員、矢倉会員、紙谷会員より、特別寄付をいただきました。ご協力ありがとうございました。

社会奉仕委員会 紙谷委員長

11月1日(木)は吹田西RC担当のクリーンデーです。午前7時30分に東急レイホテル1F前にお集まりください。

野球同好会 清水(大)会員

第30回2018-19年度 第2660地区ガバナー杯争奪軟式野球大会

第3戦結果報告

10月21日(日) 箕面市サントリー球場 対難波RC

チーム名	一	二	三	四	五	計	勝ち点
吹田西	9	0	1	0	4	14	4
難波	0	0	2	0	0	2	

ダブルヘッダーの1試合目、河邊パスト会長も応援に駆けつけて頂いた一戦、初回に幸先よく9点を先制!

経済と地域社会の発展月間・米山月間

第1713回 例会予告 平成30年11月12日

卓話

ロータリー財団について

ロータリー財団委員会 矢倉委員長

その後も追加点を奪い、投げては大藤会長の好投で相手を2点に抑え14対2で快勝致しました！

第4戦結果報告

10月21日(日) 箕面市サントリー球場 対八尾RC

チーム名	一	二	三	四	五	計	勝ち点
吹田西	2	0	2	0	2	6	6
八尾	0	3	0	0	2	5	

1試合目終了後、伊藤会員奥様の手作り料理を差し入れ頂き「いとう食堂」で美味しい昼食を堪能してギリギリ10人で臨んだダブルヘッダー2試合目、シーズンゲームとなりましたが、紙谷投手の粘りのピッチングで最後はヒヤリとしましたが6対5で辛勝致しました！

この結果3勝1敗で優勝の可能性はまだ残されており、次戦が最大のヤマ場となります！

次戦は11月3日(土祝) うつぼRC戦 10:50~12:30

次々戦11月4日(日) 宿敵八尾東RC戦 9:00~10:30

会場:箕面市 サントリー球場 箕面市石丸2-11-1

諦めずに優勝目指し頑張ります。応援宜しくお願い致します。

河邊パスト会長、伊藤会員、奥様、差し入れ本当にありがとうございました。

ゴルフ同好会

橋本(芳)会員

先日10月17日(水)に第5回吹田5クラブ親睦ゴルフコンペが太平洋クラブ六甲コースにて無事開催されました。主幹は吹田江坂RC、参加人数は51名(吹田西16名 吹田12名 吹田江坂14名 千里メイプル4名 千里5名)。

秋晴れのゴルフ日和でした。とても素晴らしいゴルフ場でしたが残念ながら我がクラブの最高順位は6位でした。

優勝 吹田江坂RC 堀田 稔 会員

準優勝 千里メイプルRC 水本 徹 会員

第3位 吹田江坂RC 金馬 隆仁 会員

表彰式・懇親会はクラブハウス内にて開催しました。



次年度第6回は、我が吹田西RCが主幹です。おもてなしゴルフで他クラブの方を迎えましょう。

11月28日(水)は第2回大藤会長杯です。場所は茨木カンツリー倶楽部です。

表彰式・懇親会はゴルフ同好会忘年会として開催します。

場所はまだ、未定ですが、ゴルフに参加できなかった方も時間がありましたら参加お願いします。

~~~~~

### ニコニコ箱

### 高木副SAA

- 澤井会員 事務所所員の福原の入会、お認め頂き有難うございました。
- 宮川会員 木下様、お世話になりました！ありがとうございました。
- 橋本(幸)会員 ガバナー訪問を欠席してすみませんでした。
- 橋本(芳)会員 池田泉州銀行のゴルフコンペで団体優勝しました。4人のうち3人の成績で決定で、その中に入っていました。
- 河邊会員 野球の皆様、昨日の2連勝おめでとうございます。
- 清水(大)会員 野球部2連勝を祝して！河邊パスト会長、伊藤さん、奥様、差し入れありがとうございました。本日の卓話もよろしくです。
- 長屋会員 前回欠席のお詫び。
- 高木会員 秋らしくなりました。

|          |          |
|----------|----------|
| 本日のニコニコ箱 | 26,000円  |
| 累計のニコニコ箱 | 515,000円 |
| 累計のニコニコB | 1,000円   |

### 卓話

### 米山記念奨学会について

### 米山記念奨学会委員会 清水(大)委員長

まず簡単に、米山記念奨学事業についてご説明いたします。

ロータリー米山記念奨学事業とは、日本のロータリーが作った独自の事業で、34地区、全地区が参加する合同プロジェクトです。1952年に事業が始まって以来、一貫して、日本で学ぶ外国人留学生を支援しています。「公益財団法人ロータリー米山記念奨学会」というのは、この事業をおこなうために、日本のロータリーが協同して運営する奨学財団で、財源はすべてみ

なさんからのご寄付で成り立っています。この奨学金の最大の特長は「世話クラブ・カウンセラー制度」です。銀行振込が多い他の奨学金とは違って、米山奨学生にはロータリー活動に共に参加してもらい、交流することを大切にしています。世話クラブ・カウンセラーになったロータリアンからは、「カウンセラーをして、ロータリーの楽しさを知った」「いったんロータリーを退会したが、また米山に関わりたくて再入会した」「目に見える国際奉仕の最前線。これほど面白いチャンスはめったにない」といった声が寄せられています。

終戦翌年の1946年、“日本のロータリーの父”米山梅吉氏が亡くなりました。3年後の1949年、戦争のため解散を余儀なくされた日本のロータリーが、国際ロータリーへ復帰します。

戦後、落ち着きを取り戻すにつれ、梅吉氏の功績を永遠に偲ぶことができるような、何か有益な事業をやるのではないかという声が大きくなってきました。当時の日本はまだ食糧事情もはかばかしくなく、会員たちは「クラブへ行けばお茶を入れてもらえる」と、弁当を持参し、ストーブを囲みながら熱心に議論をしていたそうです。そして1952年、東京RCの古沢丈作会長が「米山基金」の構想を発表しました。これは、アジアから優秀な学生を招いて学費を援助し、二度と戦争の悲劇を繰り返さないために“平和日本”を肌で感じてもらいたい、というものでした。こうして、東京RCが始めた「米山基金」は、わずか5年で、日本の全ロータリークラブの共同事業として継承され、1967年には財団法人ロータリー米山記念奨学会が設立されました。

ところで、米山は日本のロータリー独自の奉仕事業として作られ、発展してきました。このため、ロータリーの活動ではあるものの、国際ロータリーとは一線を画す状況が自ずと続いていました。そうした関係が次第に変化してきたのは2004年頃からです。2004年11月のRI理事会で、「奨学金の授与を通し、世界理解と平和に貢献されている財団法人ロータリー米山記念奨学会を称賛する」とされ、これ以降、ロータリー米山記念奨学会が「多地区合同奉仕活動」の手続きを取ることで、ロータリーの名称やロータリーマークを今後も続けて使用することを認める、ということが決議されました。2007年には全34地区からの同意を得て、国際ロータリーの定める多地区合同奉仕活動として、すべての手続きを完了しました。そして2014年1月のRI理事会では、ロータリー学友の定義が拡大され、米山学友もまた、ロータリー学友の一員となりま

した。これを受けて2016年のソウル国際大会には世界中から多くの米山学友が集まり、ロータリーファミリーの一員として参加したのです。

次に、米山ではどのくらいの奨学生を支援しているかについてお話しします。米山は、外国人留学生を対象とする民間の奨学金では国内最大規模です。2018学年度は日本全国で852人が採用され、現在、各ロータリークラブでお世話をいただいています。累計では世界127の国と地域から2万396人を支援しています。奨学生の国・地域別の割合はグラフのとおりです。累計では中国、韓国、台湾が多いのですが、最近ではベトナムの奨学生が急増しており、今では中国に次いで、多くを占めています。

米山の奨学金プログラムには5つの種類があります。基本的には、大学・大学院の学生がほとんどで、学部生は月10万円、大学院生は月14万円が支給されています。期間は半年から、長い人で2年間です。大学だけでなく、それ以外の教育機関、たとえば高等専門学校専攻科（学部相当）、短大、専門学校などからも、地区奨励奨学生として採用することができます。海外応募者対象奨学金は、試行期間を経て、来年2019学年度から正式プログラムになります。これは、日本への留学が決まっている外国人が、海外から個人で直接応募し、奨学金を予約できるものです。最後の海外学友会推薦奨学金は、海外の学友会がその国で募集し選考・推薦するもので、対象となるのはすでに博士号を取得した上級研究者です。現在は台湾と韓国の学友会で実施しています。

では、奨学生の採用は、どのような基準で行われているのかと言いますと…

「将来の目標・留学の目的がきちんとしているかどうか」「交流への熱意があるかどうか」

「人柄の良さ」「コミュニケーション能力の高さ」詳しい評価項目や点数配分は公表できませんが、こういった項目で点数化し、各地区選考委員会が面接選考をしています。

ロータリー米山記念奨学会は2012年に公益財団法人となりました。より一層の公平性・透明性を確保するため、このように全地区共通の選考基準で選考をし、そこに地区ごとの裁量を加えています。米山奨学金はお金に困っている留学生の経済支援ではありません。

珍しい国だから、生活に困っているから、学校の成績が優秀だから、それだけでは米山奨学生に合格しないのです。

当地区では今年度、46人の奨学生を受け入れています。国・地域別には、中国・韓国・台湾・インドネシ



ア等となっています。こうして巣立った奨学生たちは、さまざまな形で活躍しています。ロータリアンになる学友もおり、現在把握されているのは231人。その中には、ガバナーになった学友も3人います。学友が中心となって設立したロータリークラブも国内外に5つあります。また、韓国では2016年に、学友だけの衛星クラブ、「韓国米山セソウル・ロータリー衛星クラブ」も設立されています。米山学友会（関西）の元会長の藩（松田） 振興さんも今は第2660地区のロータリアンとして後輩のために頑張っておられます。

巣立った奨学生のOB組織、米山学友会は日本に33、海外に9つあります。

米山記念奨学事業の成果、それは「学友」そのものです。寄付が減っても学友の数は増え続けます。

2011年、東日本大震災が起きたとき、発生直後から日本の無事を願うメッセージが相次いで寄せられ、国内外の学友から760万円の義援金が送られました。米山奨学会への寄付は、ロータリアンだけではありません。学友からも、先ほどの義援金以外に、累計3,339万円の寄付をいただいています（2018年6月末）。東京の事務局にわざわざ大阪から来てくれた台湾出身の学友は、これまでに計200万円の遺言寄付を申請しています。このほかにも、2007年から11年間、毎年欠かさず50万円を海外から送金してくれている中国の学友もいます。

こうした「寄付」という形での恩返しは、他のプログラムではあまりみられない、米山学友ならではのものだということです。

地区で採用できる奨学生の数は、このような計算式で算出しています。まず、収入予測をもとに、採用数が決まります。2019学年度は850人枠です。株式の「配当金枠」や、海外から直接応募する「別枠」を除く776人を、その地区の寄付総額、個人平均寄付額、特別寄付者割合、有資格者数、それぞれの対全国比で案分します。奨学生数は寄付で決まるといっても過言ではありません。例えば、会員数が少ない地区は、「寄付金総額」で大きな地区に及ばなくても、個人平均寄付額や、特別寄付をする人の割合が高ければ、その分採用数がアップする可能性があります。一つのクラブで誰か1人が10万円寄付するよりも、同じ金額なら全員が5,000円ずつ出した方が有利に働くのです。

地区別の個人平均寄付額ですが、昨年度の全国平均は16,068円、最も高かったのは、第2590地区（神奈川県横浜市・川崎市）の31,193円でした。当地区、第2660地区は一人平均26,424円、全国で2番目でした。もう少し詳しく見てみますと、当地区の普通寄付金は平均5,141円、全国平均は4,797円。また、特別寄付金は21,283円、全国平均は11,271円でした。

次は、特別寄付者の割合です。全国平均は45.4%、当地区は73.7%でした。

ちなみに、トップは第2840地区（群馬）で83%以上のロータリアンが特別寄付をしています。この特別寄付者割合は、奨学生採用数にも関わってきます。

みなさまのご寄付は、どのように使われているでしょうか。

2017-18年度の寄付金収入は14億3,381万円（前年度13億7,305万円）、前年度から約6千万円の増加となりました。昨年度は財団設立50周年の節目となる年度であり、個人が特別寄付をした割合も、過去最高の45.4%と多くの方々からご支援をいただきました。

有価証券の配当金は奨学金として、また、皆さまからの寄付金は奨学事業に使用しています。

2019学年度の奨学生採用数は30人増の850人枠とし、黒字分を積み立てている奨学事業安定積立財産からも使用します。

ガバナーが掲げる当地区の今年度の目標額は、1人当たり30,000円となっております。地区で奨学生を何人採用できるかは、ほぼ、寄付額の全国比で決まります。

1人でも多くの奨学生を採用できるよう、今年度の目標に向けてご協力をお願いします。

これからの世界情勢では、国と国との懸け橋となるような、優秀な人材が果たす役割はますます大きくなっています。米山記念奨学事業の重要性は、さらに増していくことは間違いありません。これまで日本のロータリアンが蒔いてきた「平和の種」を、今後も絶やすことなく、大きな花を咲かせ続けていくこと、それが我々ロータリアンの使命と思います。今後も、皆さんと一緒に、この米山奨学事業を盛り上げてまいりましょう！ご支援、ご協力を、どうぞよろしく願いいたします。